

## 令和5年度11月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

- 【 会議名称 】 令和5年度11月期古賀市社会教育委員の会議
- 【 日 時 】 令和5年11月21日（火） 18時30分～20時00分
- 【 場 所 】 リーバспラザこが交流館 103洋室
- 【 主な議題 】 第3次古賀市生涯学習基本計画策定
- 【 出席委員 】 井浦議長、村山委員、橋爪委員、砥上委員  
倉掛委員、石川委員、丸井委員、山本委員（以上委員8名）
- 【 欠席委員 】 角森副議長
- 【 事務局 】 教育部長、生涯学習推進課長、村上参事補佐、平川、田原
- 【 傍聴者数 】 0名

## 【 配布資料 】

- ・ レジユメ
- ・ 第3次古賀市生涯学習基本計画
- ・ 笑顔のつどいの振り返り

## 【会議内容】

### 1. 開会あいさつ

### 2. 協議事項

#### (1)生涯学習基本計画の最終確認

##### (事務局)

1 番大きな変更点は、第 3 章これまでの取り組みと課題を追記している。これまでの取り組みと課題という振り返りのページを入れた方が、なぜ第 4 章のような 目標と方策になるのかというのが、はっきりと分かりやすくなると思った。第 3 章はすべてが新しくなったページになる。

##### 変更点の説明

振り返りを入れることで、第 2 期計画との繋がり、関係性を確認することや第 4 章への繋がりがよりはっきりとしてくるのではないか。これに対するご意見やご指摘、気づいた点、感想等お願いします。

##### (倉掛委員)

2 章と 3 章の順番は何か意図があるのか。私は、趣旨と位置付けがあって、振り返ってこれからという気がする。

##### (事務局)

2 章で、これから先見ていただきたい視点や、生涯学習のイメージを出した。この視点とイメージに基づいて、第 2 次基本計画を振り返るとどうなるかという流れで、第 3 章という位置づけにした。もし、第 2 章と第 3 章を入れ替えるとこの振り返りの順序が、第 2 次計画に基づいた構成になってくるものだから、その後の第 4 章に結びつきにくいことを考慮した上で、2 章と 4 章の間に振り返りを入れた。第 2 次計画の時は、振り返りは、1 番最後に入っていた。これからやっていくことを全部出した上で全計画を振り返るのは違和感がある。それよりは、振り返りがあって、だからこういう方策、目標に向かって進んでいくという方が説明的と考えた。

##### (砥上委員)

前回の課題があって、今という流れが普通だと思うが、2 章にこれからと書いているから、言葉が、これからやっていくことという捉え方をしてしまうと思う。

これからやっていくことであれば、反省と課題があって、それを受けてという流れだと思う。深く読んでないが、1番ぱっと見てそう思ったから、多分見られる方はそう思うのではないか。

(倉掛委員)

目次を見た時に違和感がある。3章と4章の1、2、3、4は全く一緒なので。

(井浦議長)

3章の方が先に来た方が流れとしてはやりやすいのではじゃないのかということが今出ている。

(倉掛委員)

第2章の古賀市におけるこれからの生涯学習・社会教育振興の中に、これまでの取り組みと課題を入れ込んだ方がいい。まず振り返って、今後はこうするという流れの方がいい。わざわざ章立てでこの3章に入れ込むという違和感がないのかなと思う。

(井浦議長)

章として起こさないということですね。

(倉掛委員)

取り組みと課題をまた1、2、3、4と分けるよりは、振り返りで1つにして、2章の中に入れて方がいいと思う。3章の振り返りが、今回の第3次の計画のその、1、2、3、4、になっているのは、次に繋げるためにこういう分け方にしたのか。

(山本委員)

これまでの振り返りだったら、第2章にも入れて、そこから第3章は、3次計画の方に繋がったという流れの方がいいと思う。課題が出たから、計画ではこういう目標を作ったという流れのほうが読みやすい。

(事務局)

第4章に、今回持ってきた生涯学習を実現するための目標と方策があるが、これの1番最初に、3、4行ぐらいで、まとめを作っている。ここに振り返りを入れるとしたらどうだろうか。

(倉掛委員)

事業ごとに振り返って次に繋げるやり方だったら、そっちの方がいいかもしれないが、計画全体の総合的な振り返りにしてもよかったのではないか。

(村山委員)

初めて読む人のことを考えると、きっちり分けてやった方が調べ読みするにはいいと思う。急いでいる人はかいつまんでしか読まないと思う。方向性を見極めて次の活動に向かう。そう考えたら、きちんと目次で分けてあるように分けてあった方が、調べやすいと思う。

(井浦議長)

1つの章、1つの項目の文章が長くなる。それよりは、村山委員が言われていたように、反省があって、新しい文章につないだほうが読みやすい。振り返りは、トータルの良さと個別で見えてわかる良さがあると思う。分量としては、第3章のこれまでの取り組みと課題が1番長いので、そこをもう少し簡潔にして、章としてはきちんと保護しておくというのは考えられる。

(事務局)

第3章は第4章に繋げるための前振りとして書いているので、もう少し文を減らして、全体的にボリュームを下げることはできる。

(砥上委員)

2章の3から繋がる3章なので、そこが分かればいいと思う。これまでの取り組みと課題という、過去を振り返って、そこをスタートに新しいこと考えたように見えてしまう。でも、この繋がりで見たら、2章の3で出てきたこの4つの視点で過去を振り返っている。

(事務局)

いきなり1から始まるのではなく、その前に2、3行入れて、この4つの視点で振り返ってみたという文章があってもいいかもしれない。

(井浦議長)

色々な見方があるので、事務局としてどれが伝わりやすいかご検討いただきたい。

(事務局)

第4章の説明。一部変更したところを赤で書いてある。

(倉掛委員)

4の②の1行目、子供から高齢者までいろんな世代の人が公民館を使っていると書いていますが、実際、子どもは使っていない。そこを課題にしていた。実際は、高齢者しか使っていない。もっと子供の居場所を地域にたくさん作るということを後半の部分に入れていただいた方がいいと思う。やはりそもそも子供だけでは鍵を貸してもらえない。だから、やはり行政の役員がどうしたら子どもたちの居場所になるかを考えてほしい。

(井浦議長)

完成まで若干まだ時間があるので、今日持ち帰られて、また気づいたことがあれば、事務局に連絡を入れていただければと思う。

## (2)笑顔のつどいの反省

(井浦議長)

周知については、参加者が少なかったとあるが、同種のグループを呼ぶ良さ、あるいは同種だけでいいのかという課題もある。本当は同志の方ももっとたくさん集まっていたいで、自分たちが持っている良さや課題を共有できるような場になればいいと思う。テーマの設定の仕方は、私たちがしっかり考えないといけない。コロナで中断する前にグループに分かれて、ワークショップのようなこともした。そのようにまた戻すべきなのかというのも協議しながら、来年度のものも考えていきたい。今回8回を迎えているので、おおむね10年ぐらいを一区切りにしながら、集いとして継続していくか、新たなものを考えていくのか。今後考えていかないといけないと思う。そのほか意見があれば聞かせていただきたい。

(砥上委員)

やはり周知のタイミングやみんなに発信する場なのか確認が必要と思う。特に少年の船は関わっている人が多いのに、関係者の方は来られてなかったと思う。岩田さん自身も発表はするけど、みんなでその活動を知ってもらう場だという認識がなかったと思う。タイミング的にも早いうちからみんなが来て発信する場だと宣伝する。参加した人は興味あると思うが、周知する機会があまりなかった。去年少年の船に参加してみて、たくさんのスタッフが関わっていて、とても関心を持ってやっている。子供だけでなく、大人も鹿児島までついてきて、ボランティアでスタッフをしている。少年の船の発表があると分かっていたら、行ってみたい方もいるはずだが、関係者も発表があることを分かっていた。

(井浦議長)

依頼の仕方やどう広げていくか、事前に宣伝するかは私たちの課題だと思う。他の学校のコミュニティの人たちにもっと来ていただいたら、参考になる部分、あるいは、こうした方がいいという部分がたくさん出てくると思う。発表を広げると話題が分散してしまうという課題もあるが、うまくそのバランスを取りながら考えていきたい。

(砥上委員)

以前、花見小学校が発表したときに、事前にリハーサルをした。そのときは、過去の役員さんたちが集まって、こうやって発表されるからみんなで応援しようという雰囲気があったので、そんなに多くはなかったが、それでもやはり関係者が参加して、その場でインタビューを受けていたのでそういう流れができれば、少なくとも関係者は来ると思う。

(井浦議長)

関係するグループだけでなく、地域全体に広く来ていただかないといけないので、コミュニティの発表は、コミュニティの人たちへの周知をもっときちんとしなくてはいけない。少年の船だったら、少年団体や地域の子ども会へ周知しながら、参加したらこんなことができるって知って、繋がっていくと思う。その辺を次回また深めていきたいと思う。

### 3. 各委員から

(井浦議長)

10月に那珂川市の社会教育委員さんと 社会教育関係団体の方の研修会に講師として呼ばれて行ってきた。古賀市の紹介もしたが、行くにあたって那珂川市のこともホームページで色々調べた。これは、那珂川市の社会教育委員さんが、協議の中で提言されたもので、情報収集ノートと言って、自分が知っている講師になり得る人を日頃からノートにチェックして、それを社会福祉の会議の中で出し合って、講座の時の講師に使ったらどうかって、マッチングしてある。個人情報になるが、例えば、社会教育委員の中であれば、色々仕事の中で使えるようになり、記録できる。

次に、11月1日に、福岡県社会教育研究大会に行ってきた。

資料の説明

九州ブロック社会教育委員研修会に、倉掛委員と事務局と一緒に行ってきた。

1日目が、万葉集の研究をされている日本文学者の上野さん、宮崎県立図書館の名誉館長の伊藤さんの対談で面白かった。万葉歌と現代短歌も織り交ぜてお話されて、万葉文化から繋がれた心をお話しされた。2日目は、3人それぞれ分かれて分科会に参加した。私は、代表分科会、社会教育員の役割のところに行ったが、東京の昭島市が、市民が社会

教育行政に関わる人たちに 意見や思いを表明する場、昭島市の未来について語り合う場となる昭島会議という発表があった。教育委員会が主催して、社会教育課が事務局で、社会教育委員がこの会議の計画と運営を担当する。面白い内容だと思って聞いていた。来年は鹿児島であるので、時間が取れたらまた皆さん、ぜひご参加いただきたい。

(倉掛委員)

私も一緒に九州ブロック社会教育委員研修会に行き、第1分科会の地域の家庭教育、地域全体で、地域の連携、共同というテーマだった。地域全体で子育てをし、育ち、応援というところで、NPOの方が、自分が小さい子供を連れて子育てを右往左往する中で仲間が欲しいというところから、活動をどんどん広げられていって、聞いている私たちは、何でそんな魔法みたいなことができるのだろうと思った。かなりバックアップがあり、お金のところは自分で色々勉強されて、助成金を利用している。18歳の子供たちの不登校のところまで、いろんな課題に取り組んである方だった。そして、素晴らしいのは、やはりチームを作って、母親たちを巻き込んで、ファシリテーションの講座を受け持てるぐらいの人材育成もされているところがすごいと思った。大変勉強になった。

(事務局)

私は第2分科会家庭教育支援の山口県萩市の家庭教育支援のはぐくみという、団体の活動の良さを聞かせていただいた。非常に刺激的だったのは、本当に支援が必要な家庭はなかなか学校に来てもらえないということ。うちの事業に置き換えると、生涯学習推進課が行っている家庭教育講座の中で、性教育や思春期講座がある。開催するが、なかなか人が集まらない。ただ、アンケートをとってみると、思春期講座や性教育講座に興味関心があるからやってほしいというアンケートが非常に多い。需要が多いのに、やってみるとなかなか人が来ない、そういう不思議な現象が起こっている。萩市の家庭教育支援のチームは、既存の学校教育、就学時健康診断や、入学説明会など必ず親が集まる時を狙って、アウトリーチし、活動紹介や勧誘を行っている。それを聞いて、生涯学習、社会教育活動のあり方として、もうすでに顧客が多い既存の事業とのコラボレーションは、こちらを売り込んでいく場合でも、非常に有効だと思う。例えば、生涯学習の笑顔のつどいも、まつりこがや食の祭典とコラボすることも考えられる。来年度の鹿児島大会も積極的な参加をお願いしたい。

(2)事務局から

・市長・教育委員会との意見交換会について

日 時：令和5年12月19日（火）15時～

場 所：市役所

テーマ：「放課後の子どもの過ごし方について」(案)  
(前回テーマ：コロナ後の地域活動の進め方について  
PTCA活動、部活動、通学合宿など)

(おわりの言葉)

最近、学校ではインフルエンザが流行っている。今日、花見小学校の研究発表会を行ったが、クラスの半分がいないクラスや、学級閉鎖でそもそも授業をしていないクラスがあった。うちの野球チームも今度、今週の木曜日、お別れ大会があるが、花見小学校のインフルエンザの影響で3分の1ぐらいいない状況でお別れ大会に臨まないといけなくなった。皆さんもくれぐれも体調管理には気をつけていただきたい。  
今日はお疲れ様でした。ありがとうございました。